留学だより No.6 🇵🇭

こんにちは。フィリピンのセブシティーに留学中の 16 期、栗本です。
日本の新学年が始まるころにフィリピンでは 2 か月の長期休みに入り、いろんな場所に行ってきました。

【セブ内】

左上は、ラプラプの像です。マゼランがフィリピンに到達したときに、マゼランたちと戦った人です。フィリピンでは英雄として語られていて、マゼランたちと戦った場所がセブにあります。

左下はシラオガーデンです。花畑の中にいろんなオブジェが立っている観光地です。とてもきれいでした。

右側はサンペドロ要塞の写真です。スペイン植民地だった時代にスペイン人が建てた要塞で、第二次世界大戦中は、日本軍が捕まえたアメリカやフィリピンの捕虜をこの要塞に入れていたそうです。

【コロン：パラワン】

ホストファミリーとパラワンにあるコロンという町に旅行に行きました。世界一美しい島といわれている場所です。海がきれいな観光地で、外国人が多かったです。アイランドホッピングのツアーと市内観光のツアーで、海で泳いだり、カヌーをしたり、いろんな島に行ったり、温泉に入ったり、日本の沈没船をみたりしました。海も山もきれいで癒される町でした。

【バギオ】

他の留学生と４人で、首都マニラがあるルソン島の真ん中のほうにあるバギオという街に行きました。山奥に位置していて、観光地としても避暑地としても有名です。ナイトマーケット、イゴロットストーンキングダムという石でできた入り組んだ建物、大統領の別荘などの有名な観光地を一通り回りました。個人的には、フィリピンに行く前からずっと着たかった民族衣装を着ることができ、とても嬉しかったです。日本との戦争の関わりが深

い街でもあり、当時アメリカ軍の基地であったバギオのキャンプジョンヘイでは、日本軍の山下奉文が降伏したときの文書などを見ることができました。ボタニカルガーデンには日本軍が使っていたとされる防空壕に入ることができたり、博物館には日本に関する歴史資料がたくさんあったりと、日本との関わりを知る歴史めぐりができて楽しかったです。どこもかしこも本当にここはフィリピンなのだろうかというくらいに治安がよくて驚きました。私はフィリピンの街の中でバギオが一番好きです。

【ジェネラルサントス】

マグロの水揚げで有名な、ミンダナオ島のジェネラルサントスに行きました。朝早くに行った漁港には大きなマグロから小さな魚までたくさんの魚が水揚げされていました。友達のホストファミリーの家に泊めてもらっていて、その友達のホストファザーは裁判官、ホストシスターはフィリピンで一番賢い大学の学生、ホストマザーはボランティアをたくさん掛け持ちしている人で、普段全然できない話ができてたのしかったです。

私がジェネラルサントスにいる間に選挙があり、ミンダナオ、特にダバオには、ドゥテルテを返せというポスターが貼りまくられていました。大統領選じゃなくて各地域の市長などの選挙で、選挙の結果ほとんどの地域の市長がドゥテルテ傘下の人になりました。日本や BBC のニュースなど、フィリピンの外からドゥテルテのことをみていたので良いイメージがないのですが、国内からはこんなに支持を受けている人なのかと驚きました。

選挙関連で聞いた別の話でもう一つ驚いたことがあります。大学生などが政府に対する抗議運動をすると、政府がその人たちに懸賞金をかけてお金がない人々に捕まえさせるように動いたことがあるそうです。このことを話してくれた大学生の友達の友達が、捕まえられはしなかったけれど懸賞金をかけられたことがあるらしく、怖かったと言っていまし

た。今回の選挙でも抗議活動をしていた知り合いがいると話していて、その人はフェイスブックのニュースに載ってしまったらしくとても心配していました。発言の自由に対する弾圧が身近にある中で人々が生活していることを知りました。

選挙については怖い話も聞いたけれど、想像していたようなイスラムとカトリックの対立は私が見たところではありませんでした。むしろ、同じ場所にイスラムの文化、食と、カトリックの文化が共存していてお互いにそれを受け入れ、お互いの料理などを楽しんでいるように見えました。

【スラムのボランティア】

墓地スラムでのボランティアが毎週セブシティーで行われているので参加してきました。お墓の掃除係として持ち主からほんの少しのお金をもらい、お墓内にぼろぼろで人が入れるのかわからないくらいの大きさの小屋を建てて住んでいる人がいました。屋根付きのお墓はほとんど布やコップが置いてあり、だれかが住んでいる形跡がありました。私は墓地を案内してもらったり、子どもたちと遊んだりして半日過ごしました。子どもたちはみんな人懐っこくてかわいかったです。一緒にボランティアをした日本人は人々の生活にびっくりしていたけれど、私はこのスラムの生活が普段通学路で見る人々の生活とそっくりでびっくりしました。私の通学路はスラムではないけれどスラムに住む人と同じ生活をする人をよく見るので、「フィリピンは貧富の差というよりも全体的にみんなが貧困な国だな」と改めて気づきました。フィリピンの厳しい現実に触れながらも、そこで生きる人々のたくましさや温かさに心を動かされました。

【最後に】

ここまで読んでくれてありがとうございました。これが私の留学だより最終号です。１０か月の留学を通して、自分の考え方が大きく変わったと感じています。来週から学校に復帰するので、もっと詳しい話を聞きたい方は、ぜひ１６期栗本までお越しください！